



特定非営利活動法人

防災士会 みやぎ

MIYAGI BOUSAISI ORGANIZATION

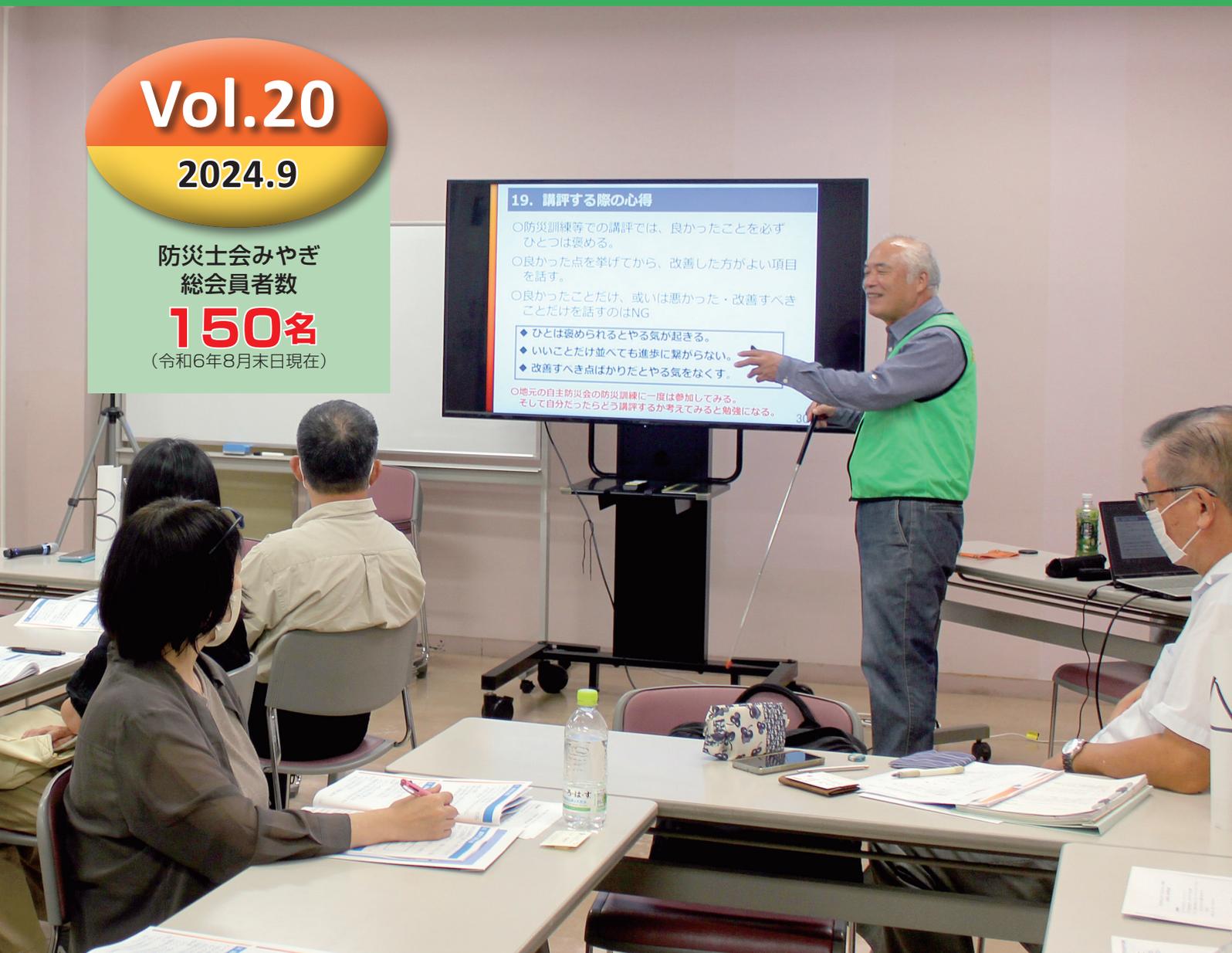
Vol.20

2024.9

防災士会みやぎ
総会員者数

150名

(令和6年8月末日現在)



19. 講評する際の心得

- 防災訓練等での講評では、良かったことを必ずひとつは褒める。
- 良かった点を挙げてから、改善した方がよい項目を話す。
- 良かったことだけ、或いは悪かった・改善すべきことだけを話すのはNG

- ◆ひとは褒められるとやる気が起きる。
- ◆いいことだけ並べても進歩に繋がらない。
- ◆改善すべき点はかりたとやる気をなくす。

○地元の自主防災会の防災訓練に一度は参加してみる。
そして自分だったらどう講評するか考えてみると勉強になる。

- 令和6年度定時総会報告
- 令和6年度宮城県受託事業経過報告
- 令和6年度前期各事業部活動報告
(派遣事業部・研修事業部・広報事業部・キッズ事業部・女性防災推進室)
- 国土交通省流域水害対策協議会参画経過報告
- 新入会員の紹介
- 編集後記

特定非営利活動法人 防災士会みやぎ 令和6年度 定時総会の審議結果報告

時下、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

6月15日に開催いたしました「令和6年度定時総会」での審議結果を下記のとおりご報告させていただきます。

なお、定時総会参加のみならず、総会後の講演や勉強会及び意見交換会ともに過去最高となる会員の皆様にご参加頂きました事、御礼申し上げます。

報告者 理事長 児玉 敏幸

記

開催日時:令和6年6月15日(土)13時30分～15時00分

会 場:みやぎNPO プラザ 1階 第一会議室(仙台市宮城野区榴ヶ岡5番地)

<定足数>

正 会 員 数 144名(令和6年3月31日現在)

議案表決者数 107名

(出席者32名:専決権委任者数52名、書面表決者43名、会場表決者12名)

有効表決率74.3%(定款第27条に定める正会員の1/2以上の出席で成立)

<議案>

第1号議案 令和5年度 事業報告並びに事業監査報告 : 賛成107 反対0 棄権0

第2号議案 令和5年度 活動計算書並びに会計監査報告 : 賛成107 反対0 棄権0

第3号議案 令和6年度 事業計画(案) : 賛成107 反対0 棄権0

第4号議案 令和6年度 収支予算(案) : 賛成106 反対1 棄権0

<結果>

すべての議案について、(定款第28条の2に定める正会員の1/2以上の賛成で可決)をもって可決されました。

※なお、各議案での質疑応答については、下記に表記いたします。

<質疑内容等>

第1号議案 林美千夫会員	Q:女性防災士は現在何名所属しているのか? A:児玉理事長=現在24名所属(※事後訂正=33名所属と訂正させていただきます)
菊地正衡会員	Q:減災絵本リオンの在庫数は何冊有るのか? A:佐藤理事=第4刷分迄は領布済み。第5刷分は、後日伝えると回答。 (現在の第5刷版在庫数=540冊) Q:減災絵本リオンの保管場所は怎么样了のか? A:佐藤理事=児玉理事長・佐藤理事・菅原事務局長が一部保管し、残りを印刷業者の「高橋写真製版」が保管している。
第3号議案 林美千夫会員	Q:学校防災について、子供たちが楽しかったと思えるような伝え方が大切。 今回、講師の養成講座やスキルアップ講座とかあるが、この様なところにポイントをおいて行っていただきたい。 また、今後の様に考えているのか? A:高橋副理事長=県の教育庁より学校防災派遣事業・アドバイザー派遣事業を受託して担当させて頂いている。子供たちと大人たちへの話し方は全く違う事は理解しているので、年齢層にあった話方を学ぶ必要性は有る。 9月に研修事業部とタイアップしながら講師を育てて行きたいので、総合的に学べる研修会を開催して行く。 A:児玉理事長=数年前から、本会与宮城県との話し合いで、若い世代の防災教育を推進目標として、宮城県では中学生の防災リーダーを育成すべく「宮城県防災指導員」の資格取得を推進している。また、今年度から新規の防災事業として「ネクスト防災未来育成事業」がスタートし本会が本事業を受託。8月に蔵王町円田中学校にて第1回育成支援事業を行う事となっている。 この機会を利用して、中学生への講話の仕方なども学ぶ機会を増やしていきたい。
林美千夫会員	Q:計画に、デジタル絵本とあるが、これは動画を考えているのか?パワーポイントなどの静止画でと考えているのか? また、減災絵本リオンでは無く、新しいテーマでの構想企画案を考えているのかを聞きたい? A:佐藤理事=現在、具体的に動画を作ると言う企画には至っていない。 昨年度、仙台放送よりアナウンサーが「リオン」の読み聞かせを大勢の来場者に対して行いたい旨の申し入れがあり、理事会審議で承認した経緯があり、今後も同様な依頼があった場合を想定してのデジタルデータ作成を検討している。
菊地正衡会員	Q:会員向け技術研修会との計画あるが、どの様な技術を考えているのか? A:児玉理事長=基本は、講師の育成を想定している。各事業部と連携しながら講師としての技術、人前で発表したり資料を作成したりできる技術を考えている。 Q:中学生の入会人数は何名か? A:児玉理事長=入会は現在2名。 Q:よく防災士会みやぎの会員数を聴かれるが、現在会員は何名いるのか? A:児玉理事長=本会のホームページの「組織・会員」に記載されています。

特定非営利活動法人 防災士会みやぎ 令和6年度 定時総会の審議結果報告

<令和6年度役員担当部>

役職名	氏名	担当部署
理事長	児玉 敏幸	事業統括・委託事業部長・広報事業副部長
副理事長	高橋 健一	派遣事業部長・委託事業副部長
事務局長	菅原 純一	研修事業部長・委託事業副部長・キッズ事業部員
理事	鈴木 博行	派遣事業副部長・広報事業部員
理事	佐藤 亜矢子	キッズ事業部長・女性防災推進室長・研修事業部員
理事	阿部 馨	研修事業副部長・広報事業部員
理事	加藤 忠悦	派遣事業副部長・キッズ事業部員
理事	高橋 弘樹	広報事業部長・派遣事業部員
理事	桑野 知美	研修事業副部長・キッズ事業副部長・女性防災推進室員
監事	渡邊 義春	
監事	尾崎 洋二	

定時総会時研修報告

今年度は3つのプログラムを組み合わせた内容で実施しました。

初めに、宮城県復興・危機管理部防災推進課の地域防災班長である阿部正宏氏から、「宮城県による能登半島地震支援」について、実際に現地に派遣されて活動した経験も踏まえて報告をいただきました。通常知ることができない行政による広域支援のリアルについて、わかりやすく説明してくださいました。

続いて、グループに分かれて意見交換を行いました。防災士になった理由や防災士会みやぎに入会した思い、防災士として感じていること等を伝え合いました。顔を合わせてお互いについて話す機会がこれまでほとんど無かったこともあり、大盛り上がりの中、30分があっというまに終了しました。

最後は、国土交通省北上川下流河川事務所流域治水課の技官である及川日花梨氏に、こども向け流域治水啓発ツール「流域戦隊チスイレンジャー」について紹介していただきました。「こどもたちに、みんなで協力して町を守る流域治水や防災について、楽しみながら学んでほしい」という願いが込められた絵本について、丁寧に説明していただきました。



「吉田川・高城川 命と生業を守る 流域治水推進協議会」実務者会議 報告書

実務者会議担当 尾崎 洋二

東北で初めて令和5年7月18日に「吉田川・高城川が特定都市河川」に認定されました。これに伴い同年8月10日に「流域対策協議会」が発足。国土交通省東北整備局からの要請で「防災士会みやぎ」が協議会に参画(一般参画は本会のみ)する事となりました。

第1回吉田川・高城川流域水害対策協議会実務者会議

- 日時/令和5年10月19日 13:30～15:40
- 場所/志田谷地防災センター会議室

【議事】

- (1)実務者会議規約
- (2)第1回協議会の振り返り
(決定事項及び提案事項)
- (3)流域水害対策計画の目次構成、記載内容の確認及び意見交換。
- (4)今後のスケジュール

地球温暖化の影響で、風水害・土砂災害等の気象学的危機が日本全国至る所で発生し、治水計画の目標とする規模の洪水の流量平均値は約1.2倍、洪水の発生頻度の平均値は約2倍と試算されている。「災害は河川の一部で発生するのではなく流域(山頂から河口まで)で発生する」という視点からの「流域治水」という体制作りが抜本的な対策となる。

全国に誇れる「吉田川・高城川 流域治水推進協議会」にしたい。(議事一部抜粋)

第2回吉田川・高城川流域水害対策協議会実務者会議

- 日時/令和5年12月22日 13:30～15:30
- 場所/志田谷地防災センター会議室

【議事】

- (1)実務者会議規定の改定
- (2)第1回実務者会議の振り返り
- (3)流域水害対策計画(素材)の検討・行動計画・素案記載内容・都市浸水を踏まえた課題
- (4)今後のスケジュール

地球温暖化に伴う気候変動により、連年これまで経験したことのない風水害・土砂災害の気象学的危機が日本全国至る所で発生し、極めて甚大な被害をもたらしている。そのことを勘案し法定名称「吉田川・高城川 流域治水推進協議会」を「命と生業を守る流域治水推進協議会」という案が提出

され、承認された。「断固として住民の命と流域の経済基盤を守る」という強い意志を宣言した。(議事一部抜粋)

第3回 吉田川・高城川 命と生業を守る 流域治水推進協議会実務者会議

- 日時/令和6年3月1日 10:00～12:00
- 場所/志田谷地防災センター会議室

【議事】

- (1)実務者会議規約の改定(名称変更)
- (2)第2回実務者会議の振り返り及び学識者意見聴取を踏まえた対応
- (3)基本(素案)の検討・基本方針の見直し(案)・章立て・名称の見直し(案)・課題箇所における検討状況
- (4)スケジュール変更について

第4回 吉田川・高城川 命と生業を守る 流域治水推進協議会実務者会議

- 日時/令和6年4月25日 13:30～15:30
- 場所/志田谷地防災センター会議室

【議事】

- (1)第3回実務者会議の振り返り
- (2)計画(素案)の検討・各機関からの意見等を踏まえ対応
- (3)課題箇所の取り組み状況
- (4)命と生業を守る流域のサポート関係
- (5)今後のスケジュール

第2回 吉田川・高城川 命と生業をも守る 流域治水推進協議会

- 日時/令和6年6月4日 15:15～16:30
- 場所/TKPガーデンシティ仙台

【議事】

- (1)第1回協議会の振り返りこれまでの取り組み
- (2)吉田川・高城川 命と生業をも守る流域治水推進計画

宮城県委託事業 令和6年度宮城県防災指導員 フォローアップ講習(地域防災コース)スタート

3年連続受託

業務責任者 菅原 純一
情報調整担当者 高橋 健一

◆講習概要

- ・目的 地域の防災活動において中心的な役割を担う「宮城県防災指導員」のスキルアップを図る
- ・開催時期 令和6年8月～令和7年2月
- ・開催自治体 16自治体(13会場)
- ・事前打合せ 13回(開催自治体)
- ・開催回数 13回
- ・講師 27名 / 補助者 26名(延べ人数)



◆講習日程

第 1 回	8月25日(日)	登米市	防災計画作成
第 2 回	8月31日(土)	七ヶ浜町	避難行動要支援者支援体制づくり
第 3 回	10月27日(日)	名取市	防災計画作成
第 4 回	11月10日(日)	石巻市	避難所運営体制づくり
第 5 回	11月16日(土)	塩竈市	避難所運営体制づくり
第 6 回	11月23日(土)	美里町・大崎市	防災マップ作成
第 7 回	11月24日(日)	加美町・色麻町	避難所運営体制づくり
第 8 回	11月30日(土)	柴田町・大河原町	防災計画作成
第 9 回	12月 1日(日)	角田市	防災マップ作成
第10回	1月18日(土)	気仙沼市	避難所運営体制づくり
第11回	1月25日(土)	栗原市	防災計画作成
第12回	2月 1日(土)	富谷市	防災マップ作成
第13回	2月16日(日)	白石市	避難所運営体制づくり

◆講習内容

①避難所運営体制づくりコース(5回)

- ・近年災害傾向及び地域の地勢状況について ・HUG(避難所運営ゲーム)(演習)
- ・避難所運営マニュアルの作成方法について

②防災マップ作成コース(3回)

- ・近年災害傾向及び地域の地勢状況について ・DIG(災害図上訓練)(演習)
- ・防災マップ作成方法と活用について

③避難行動要支援者支援体制づくりコース(1回)

- ・近年災害傾向及び地域の地勢状況について ・避難行動要支援と自主防災組織の役割について
- ・DIG(災害図上訓練)(演習) ・避難行動要支援者の配慮事項と支援方法について
- ・避難行動要支援者支援体制づくりについて

④防災計画作成コース(4回)

- ・近年災害傾向及び地域の地勢状況について ・イメージTEN(自主防災組織災害対応訓練)(演習)
- ・防災計画マニュアルの作成方法について ・より実践的にするための活動目標と年間計画

●講師、補助者一丸となって実のある講習を目指し頑張ります!

宮城県委託事業「防災実践力向上支援事業」の報告

特定非営利活動法人 防災士会みやぎ 理事長 児玉 敏幸

令和5年度支援事業結果報告

1. 気仙沼市「津谷地域振興会自主防災組織」
 - ① 支援希望内容: 自主防災組織の活性化(組織体制の見直し等)
 - ② 支援担当者: 菊地 正衡 防災士(顧問)
2. 大和町「もみじヶ丘3丁目自主防災会」
 - ① 支援希望内容: 活かした自主防災会の構築と災害時要支援者対策
 - ② 支援担当者: 児玉 敏幸 防災士(理事長)
3. 大和町「自主防災組織連絡協議会」
 - ① 支援希望内容: 防災研修会の開催「イメージTEN」
 - ② 支援担当者: 高橋 健一 防災士(副理事長)
4. 美里町「自主防災組織代表者」
 - ① 支援希望内容: マイタイムライン研修
 - ② 支援担当者: 阿部 馨 防災士(理事)、サブ担当: 児玉敏幸 防災士(理事長)
5. 加美町「中新田鳴瀬地区:28行政区役員」
 - ① 支援希望内容: 自助・共助の重要性と住民の責務を理解して貰う研修会
 - ② 支援担当者: 児玉 敏幸 防災士(理事長)

【成果報告会】

令和6年2月27日(火) 宮城県庁にて、全支援地区の



成果報告会を好評の内に開催しました。

会場参加&オンライン参加含め、14自治体の担当者が参加され、高評価を頂きました。

令和6年度支援事業について

今年度も宮城県より「防災実践力向上支援事業」を随意契約にて受託し、活動を開始しました。

1. 大和町「沢渡・八志田行政区自主防災会」

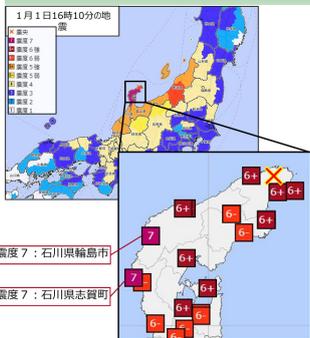
- ① 支援希望内容: 地区防災計画の見直し「活かした地区防災計画策定」
- ② 支援担当者: 児玉 敏幸 防災士(理事長)

2. 美里町「小島行政区」

- ① 支援希望内容: 要支援者名簿の作成及び避難計画策定
- ② 支援担当者: 初期 児玉 敏幸 防災士(理事長)・メイン担当 鈴木 博行 防災士(理事)

令和6年「能登半島地震」の対応について

特定非営利活動法人 防災士会みやぎ 理事長 児玉 敏幸



輪島市内

発災状況概要

令和6年1月1日16時10分、石川県能登半島を震源として、マグニチュード7.6の地震が発生。石川県輪島市、志賀町で震度7が観測され、北海道から九州地方の全国で震度6強から震度1を観測。石川県能登半島周辺に対して「大津波警報」が発令、山形県から兵庫県北部の日本海側に「津波警報」が発令される大災害となった。

被害の状況

- ① 住宅被害: 全壊=8,424棟、半壊=20,461棟、一部損壊=96,826棟
※被害の拡大の原因=現行の耐震基準(2000年耐震基準)に満たない木造家屋が多数を占めていた事が大きな原因。
- ② 土砂災害: 大規模な土砂災害等で、最大約3,300名が孤立するなど多数の孤立地域が発生。
- ③ 交通網被害: 土砂災害での道路寸断での半島孤立化のほか、地盤隆起や津波災害にて、全ての港湾機能が麻痺したため、応急対応や人名救助・物資搬入等多大な影響がでた。
- ③ 2次災害: 輪島市朝市通り周辺にて、焼失家屋約240棟、焼失面積約49,000㎡に及び大規模な火災が発生。
- ④ ライフライン: 1) 上下水道被害=ほぼ全地域で長期にわたる断水が継続したため、避難生活が長期化する原因となった。
2) 通信障害=能登半島北部6市町(七尾市、輪島市、珠洲市、志賀町、穴水町、能登町)などで、最大7から8割のエリアで広範囲な通信断絶

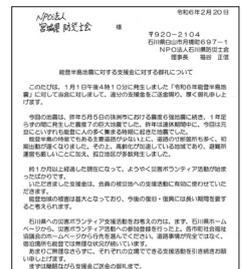
本会の対応状況

- ① 状況確認と被災地連絡: 1月2日10:00から、日本防災士会石川県支部長、富山県支部長、新潟県支部長、福井県支部長へ直接災害お見舞いと状況確認の連絡を実施し対応を協議した。
- ② 対応の手法等検討: 石川県では、災害状況把握が難しく対応の見

通しが見つからない状況との内容。

周辺他県では、切迫した大きな被害が少なく自県で対応可能の見通し。この状況確認により、石川県支部を基本対象に支援を検討する事とした。人的支援は危険性及び見通し立たない事から、緊急的支援金を行うとした。

- ③ 実施活動(情報提供等)= 本会ホームページにて、最新の情報やボランティア活動の注意等の情報を随時掲載を行った。
- ④ 支援金について: 1月5日役員協議にて、一般的な支援(義援金)より、直接活動を行う応援として日本防災士会石川県支部に「支援金」を送る事を決定した。
 - 1) 第1回緊急支援金=1月9日(月)本会より¥100,000を送金した。
 - 2) 第2回支援金=1月15日に本会ホームページ及び会員に対して支援金への協力要請を2月29日期限で実施した。結果12名の会員より支援金をお預かりし、3月1日に支援金¥71,000を送金した。
 - 3) 石川県支部から御礼 = 2月20日石川県支部より、御令状を頂きました。



派遣事業部

副理事長 派遣事業部長 高橋健一

派遣事業部は、県内各地の自治体、町内会、自主防災組織や学校等からの依頼を受け、会員の皆様に講師等を募集し実施しています。

講話等の主な内容としては、家庭防災・防火対策、発災時の対応・避難方法、救命救急法・応急手当法、ハザードマップの見方、防災マップ作り、DIG（災害図上訓練）、HUG（避難所運営ゲーム）等、依頼先の意向に即したテーマで取り組んでいます。

依頼件数が年を追うごとに増加しており、7月末現在、28件の依頼に対応してきました。昨年度の同時期は18件なので、確実に依頼数が増加しています。これは、講師の皆様の努力の賜物と感謝しております。

そして例年、派遣依頼数のピークは10月~11月ですので、これから更に多数の依頼が入ることが予想されます。

今後もこれまで同様、講師・補助者・見学者の募集を行って参りますので、積極的な応募を切にお願いいたします。

見学者として講話等の状況や雰囲気を知り、補助者として講話の内容や進め方等を学びながら、次は講師として活動していただけますことを期待しています。

初めて講師として取り組む際には、派遣事業部の役員がアドバイスしますので、心配は無用です。是非チャレンジしてみましょう。

その一環として、研修事業部と連携し、9月8日（日）に前理事長の菊地正衡様を講師にお迎えして、派遣事業における「講師としての心構え、並びに講話の仕方、資料・パワーポイントの作り方やコツを学ぶ」というテーマで研修会を開催いたしました。

※当会のHPにて、派遣事業部活動報告書を掲載しています。

ユーザー名「防災士証登録番号」 **パスワード「bousaisi」** でご覧いただけます。



《研修事業部》 令和6年度スキルアップ研修事業計画

研修事業部 菅原 純一 桑野 知美
阿部 馨 佐藤亜矢子

◆第1回 【講師養成講座】 派遣事業部とタイアップ企画

- ・期 日:9月8日(日) 13時30分～15時50分
- ・会 場:みやぎNPO プラザ第2会議室
- ・演 題:派遣事業における「講師としての心構え、並びに講話の仕方、資料・パワーポイントの作り方やコツを学ぶ」
- ・講 師:防災士会みやぎ 前理事長 菊地 正衡 防災士
- ・講話後に意見交換会を開催
- ・募集人数:30名
- ・参加費:無 料



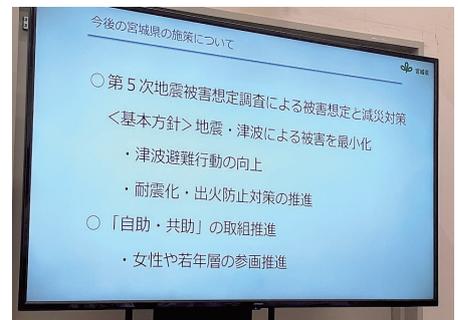
【講師プロフィール】

- 住 居:平成29年に母親の介護のため仙台市青葉区東照宮から岩手県一関市に転居
- 防災士活動:
 - ・以前はIT企業に勤務しており、還暦を前に地元で貢献したいと考え防災士になる。
 - ・平成27年6月に会社を辞めた後、防災士会みやぎ理事長に就任。
 - ・平成29年日本防災士会理事に就任。これまで数多くの防災講師を務める一方、丸森町や鹿島台、古川市内、大和町で災害ボランティアとして活動した。
 - ・現在は日本防災士会、防災士会みやぎに所属し、宮城県内及び一関市内での防災活動を行っている。
 - ・長年にわたり宮城県防災指導員フォローアップ講習のテキスト作成及び講師を務める。

<今後のスキルアップ研修計画>

◆第2回(予定)

- ・期 日:12月14日(土)
- ・演 題:『わが家と地域の防災力アップ講座』～気候変動による災害リスクの増大～
- ・内 容:気候変動に伴って増加する線状降水帯をはじめとする気候変化の現状を理解し、災害リスクを減らす方法を学ぶ。
加えて、今年8月に令和元年の運用開始以降初めて発表された「南海トラフ地震臨時情報」についての知識を深める。
- ・講 師:仙台管区気象台
- ・講話後に意見交換会を開催



◆第3回 公開講座(予定)

- ・期 日:3月15日(土)
- ・演 題:『災害情報の活用と発信方法を学ぶ』
- ・内 容:近年発生した災害の被災地において、情報爆発時代だからこそ発生している「人と災害情報」について学ぶ。
- ・講 師:東北大学災害科学国際研究所
- ・講話後に意見交換会を開催

※諸事情により期日、内容、講師の変更する場合がありますことをご了承ください。

令和6年度広報事業部 活動計画及び活動報告

広報事業部 高橋弘樹 児玉敏幸 鈴木博行 阿部馨

広報事業部

広報事業部は、自治体、防災関係機関等と連携した防災普及啓発活動や会員向けの会報誌の発刊等を担います。会報誌は、各事業部の今年度の事業計画や防災士会みやぎの会員の皆様の活動内容等を取りまとめ、年2回発刊を予定し会員の皆様にお届けしてまいります。

広報事業部の今年度の事業計画と上半期の活動内容は以下のとおりです。

【今年度の事業計画】

- 1.会報誌の発行(年2回)
- 2.自治体・防災関係機関等と連携した防災普及啓蒙活動

【上半期活動内容】

「仙台管区気象台」の参加協力依頼により「おてんき・じしん百科展2024inサンエンスディ」に参加協力

- 日時／7月14日(日) 9:00~16:00
- 場所／東北大学川内北キャンパス
講義棟 C棟202・B棟203教室



仙台管区気象台からの呼びかけで、気象台の皆様、気象予報士東北支部の皆様・防災士会みやぎからは、8名の会員の方にご参加頂きました。

1.「仙台管区気象台展示ブース」支援

ペットボトル竜巻、空気泡等の実験支援・展示パネル等の説明

(防災士会みやぎ防災士参加 5名)

2.「減災絵本 リオン」の読み聞かせ

(防災士会みやぎ防災士参加 3名)

当日は、親子連れや小・中高校生の来場者が多く、展示教室内は、溢れんばかりの賑わいを見せ展示器具等の実験支援・説明等を行わせて頂きました。

また、別教室では、「減災絵本 リオン」の読み聞かせを行い多くの来場者の方にご参加して頂き熱心にお聞き頂きました。



今後の活動予定

防災関係機関、団体等から協力依頼等の相談が多く寄せられております。当会理事会で協議を行い広報事業部として判断し活動致します。

キッズ事業部の主な活動内容と 上半期の活動について

主な活動内容：減災絵本『リオン』の頒布・広報活動、読み聞かせ活動

昨年度～今年度これまでの活動

■減災絵本『リオン』10周年記念事業報告

令和5年12月17日(日)、「令和5年度 防災士会みやぎ 公開講座」として「減災絵本『リオン』発刊10周年記念事業」を開催しました。会場である「せんだい3.11メモリアル交流館」との協力事業として、会場参加とZoomによるオンライン参加のハイブリッド形式で行いました。参加者は、会員・一般あわせて会場参加が24名、オンライン参加が5名でした。

「減災絵本『リオン』10年を迎えて～作製者の思いを聴く」と題し、保田真理防災士、黒田典子防災士、林美千夫防災士による座談会と、松本康弘防災士からのビデオメッセージにより、発刊に至る当時のお話や10年前に作製したときの思いとこれからについてお話しいただきました。災害と地球の恵みとは隣り合わせにあるもので子どもを怖がらせないものという強い思いや、「津波」のページを手貼りで作製する構成にこだわったこと、『リオン』命名の所以など、お話は尽きませんでした。

「減災絵本『リオン』読み聞かせのコツ!を学ぶ」と題し、制作メンバーの一人でもありフリーアナウンサーの黒田典子氏により、実演をまじえ読み聞かせのポイントをご講話いただきました。また、読み聞かせの様子を映した動画を見せていただきながら、子どものたちと楽しめるコツなども教えていただきました。

10年経ち主人公のモデルになった男の子も中学生になりました。「減災絵本『リオン』読み聞

かせで育った子どもたちの声」として、会場ではかずまさん(中2)、オンラインではいちろうさん(中2)、ゆきさん(小6)の3人に、読み聞かせをされていた頃の感想や、実際に自分が読み聞かせ活動をした時のこと、これからの夢などお話しいただきました。

最後に、ご参加いただいた方々の中から抽選で10名に減災絵本『リオン』をプレゼントしました。登壇者の皆さんにプレゼンターとして当選番号を引いていただき会場はとても盛り上がりました。

師走の忙しい中ご参加頂いた皆様、そして準備から開催まで関わった本会会員の皆様に感謝申し上げます。

■昨年、阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センターで開催された企画展「防災100年えほんガーデン」にて減災絵本『リオン』を展示いただきました。『リオン』を含め150冊ほどの防災関連の絵本が集められ展示されたとのことです。



女性防災推進室の主な活動内容と これからの活動について

昨年度、防災士会みやぎの組織の中に「女性防災推進室」が作られました。女性防災士のネットワークづくりや情報を届けながら語り合える場を創出したいと考えています。

女性防災士の交流会開催に向けてのアンケートを昨年度行い、8名の方からご意見をいただきました。更に多くの方からご意見をいただきたく、今回報誌にて改めてアンケートをいたします。

皆様のご意見をまとめ、11月頃にZoomにて女性防災士の交流会を開催したいと考えています。なるべく多くの方が参加できるように、みなさまのご意見をお聞かせください。

以下の二次元コードをスマホで読み込みGoogleフォームに入力ください。

アンケートのメ切は、10月20日(日)です。よろしくお願いたします。

【女性会員の皆様用Googleフォーム】

Googleフォームで簡単にアンケートの回答ができます。



【会員の皆様用Googleフォーム】

今回は女性会員対象の企画として開催いたしますが、全体を対象としたオンライン企画についてはご要望の声など多数ございましたら改めて企画したいと存じます。

アンケートにご協力ください。



減災絵本『リオン』の「読み聞かせ」「販売」等の活動状況について

① 昨年12月1日付で、「減災絵本『リオン』」第5刷が発刊されました。毎回600冊が刊行されたので、これまでに2400冊の『リオン』が、タンポポの綿毛のように全国へ飛び立ち、多くの方に手にとっていただき子どもたちに『リオン』の言葉を届けていただけたと感謝しております。

② 去る7月16日(日) 東北大学川内北キャンパス講義棟で開催された『学都仙台・宮城サイエンス・デイ』に参加し、「おてんき・じしん百科展2024 in サイエンス・デイ」の講義コーナーで読み聞かせを行いました。多くの親子のみなさんにご参加いただき、『リオン』のメッセージを伝えました。

③ NEWS!～今後の予定～イベントで読み聞かせを行います。興味のある方はぜひご参加ください!

- ・10月12日(土)「仙台長町紙芝居フェスティバル」
- ・11月3日(日)「東北・復興マラソン」



読み聞かせ講座も企画中です。

決定しましたらお知らせいたします。みなさまのご参加をお待ちしています。

令和6年度新入会員のご紹介

今年度、防災士会みやぎに、ご入会頂きました防災士の皆様の中から5名の方をご紹介します。今後の皆様のご活躍を心からご期待させていただきます。《お名前(出身地/現住所)の順です。》



石黒 浩伸 (山形県/仙台市)

2024年1月に防災士会みやぎのメンバーとなりました石黒です。よろしくお願いたします。

町内会役員を担ったのがきっかけで地域防災に関心をもち、2022年に仙台市地域防災リーダーSBLとなりました。防災について更に知識を深め技能を高めるため2023年に防災士資格を取得し、地域の防災力を高めたいと思い本会に入会しました。今後の活動では地域防災力の向上はもちろんのこと、応急手当普及員資格も活かした「地域全員 一次救命士」が目標です。



佐々木 俊一 (宮城県/白石市)

はじめて防災士を知ったのは、自治会の防災学習会でした。

昨年、防災士養成講習を受講する機会があり資格を取得しました。東日本大震災の後から災害対策に関わることが多くなり、防災士会みやぎで活動することで、防災を学び、伝えられることができるようになったらと思い入会しました。これからよろしくお願いたします。



三浦 貴子 (宮城県/仙台市)

フリーアナウンサーとして、国土交通省を中心に毎年開催される『総合水防訓練』、利雪克雪を考える『ゆきみらい』等の司会を担当してきました。豪雨災害が激化する今、知識を深めたく資格取得に至りました。現在、宮城県音訳奉仕員、パラスポーツ指導員養成、企業での高齢者・障害者接遇(車いす操作、視覚障害者の手引)の実技教習を務めており、多様性社会の中で、防災士としてできる役割を見つけ行動していきたいと思ひます。



山口 純子 (宮城県/仙台市)

東日本大震災が発生した時、息子は一才2ヶ月。

息子を守ろうと毎日必死だった事を思い出します。いつどこでどんな災害が起きてもおかしくない時代。一人でも多くの方々、家族、大切な人、そして自分の命を守るために必要な知識や経験を学びたかったのが防災士になろうと思った一番のきっかけです。息子も中学生になってすぐに防災士の資格を取得し、親子で学び合いながら、親子防災士として日々活動をさせて頂いております。

防災士会みやぎの先輩方には、これからもいろいろとご指導いただければ幸いです。親子共々、どうぞ宜しくお願い致します。



山口 岳人(中学3年生) (宮城県/仙台市)

小さい頃に聞いた緊急地震速報メールの警報音。この音が私の東日本大震災の記憶になっています。中学生になり上級救命講習を受講し、防災による多大なる効果に気づきました。そこで、自分が多くの命を守る存在になりたいと思い、防災士の資格を取得しました。災害はいつ起こるかわかりません。

家族や友達と日頃から「命を守る防災会議」を開き、防災活動を共に行う友達を一人でも多く増やしていきたいです。

そして、防災士として日頃からアンテナを張り、学んだ事を友達や地域の人達に共有し、誰もが防災意識を備え持つ事ができるよう、務めていきたいです。

子どもから大人まで防災を学べるイベント 「仙台防災未来フォーラム2024」に出展しました

3月9日、仙台市青葉区にある仙台国際センター展示棟、仙臺緑彩館を会場に「仙台防災未来フォーラム2024」が開催されました。「仙台防災未来フォーラム」は、東日本大震災の経験や教訓を未来の防災につなぐため、発表やブース展示、体験型プログラムなどを通じて防災を学び、日頃の活動を発信できるイベントです。

10回目となる今回は「仙台防災枠組折り返し みんなで今できる防災(こと)」をテーマに、地域団体や企業、大学など139団体が出展し、活動の発表や展示、ワークショップ等を行いました。

防災士会みやぎは72番ブースにて平時及び災害時の活動の報告をパネル展示で紹介。「防災士」の紹介や、本会発刊の減災絵本「リオン」の展示と紹介を行いました。ご協力いただいた会員の皆様に心より感謝申し上げます。

会場内ステージショーには阿部清人防災士が出演。「防災」+「サイエンス」を掛け合わせた「防災エンスショー」には、子供から大人まで幅広い年代の方が参加し、好評を博していました。

来場者数は4,100人(仙台市発表)、会場では令和6年能登半島地震の復興支援について考えるシンポジウムほか、災害支援車の車両展示、スタンプラリー、災害VR体験&マイ・タイムライン作成ワークショップ、インクルーシブ防災等、様々なプログラムが行われ、学びと交流を深める1日となりました。

広報おおさき2024年6月号に当会、鈴木博行理事の 防災についてのインタビュー記事が掲載されました。

The collage shows several pages from the 'Hiroshima' magazine. On the left, there's an article titled '防災士に聞く!! 防災・減災の3つのポイント' (Interview with Disaster Preparedness Officers!! 3 Key Points for Disaster Prevention and Mitigation). In the center, there's a photo of a boat in floodwaters with the caption '災害から身を守るための備えを考えましょう' (Let's think about preparation to protect ourselves from disasters). On the right, there are two pages from an interview with a council member, titled 'マイ・タイムライン 作成していますか?' (Are you creating your My Timeline?).

今年度、前半も多くの会員の皆様に防災士会みやぎの活動にご参加頂き、そのご活躍の様子をお伝えさせていただきます。今後とも宜しくお願いします。(H.T)

編集後記

お待たせいたしました!「会報誌Vol.20」を皆さまにお届け致します。今回から紙面を大幅に大幅にリニューアルさせて頂きました。今後も皆さまに会のリアルな情報をお伝えさせていただきます。どうかご期待下さい! (by SUZUKI)

特定非営利活動法人 防災士会みやぎ Vol.20 2024.9



■ 発行者 理事長 児玉敏幸
 広報部 会報作成委員会

〒983-0851 仙台市宮城野区榴ヶ岡5番地
みやぎNPO プラザ内 No.22
連絡先：080-1821-0335

皆様からの情報・ご意見はメールでお待ちしております。 jimukyoku@bousaishi-miyagi.org

<http://bousaishi-miyagi.org/>
<http://bousaishi-miyagi.org/>

